

高規格幹線道路の整備促進について

北信越部会提出
説明担当 小矢部市

高規格幹線道路は、地域間相互の交流や沿線地域の産業活性化など、活力ある経済社会活動を支える最も根幹的な社会資本であるとともに、都市の活性化を担う重要な道路であります。

東海北陸自動車道および能越自動車道は、北陸自動車道と連携する高規格幹線道路として石川県能登地区や富山県西部地区と3大都市圏との観光・産業・経済・文化等の交流を促進させ、地域活性化に大きく寄与する道路であります。また、平成26年度末に開業した北陸新幹線と一体となって、更なる高速ネットワーク体系が形成され、環日本海経済圏の政治・経済・文化交流等を深める強力な推進力になるものと期待されています。

さらに、地域産業における物流においても非常に重要であるとともに、太平洋側都市圏が万が一被災した場合における迅速な復旧・復興支援活動に重要な役割を果たすもので、日本経済にとって必要不可欠な道路であります。

しかしながら東海北陸自動車道においては、平成24年4月に白鳥IC～飛騨清見IC間の4車線化が決まっておりますが、残る飛騨清見IC～小矢部砺波JCT間が暫定2車線による対面通行であることから、近年の交通量の増加、交通事故に伴う上下線の全面通行止め、とりわけ降雪時においては、慢性的な渋滞を引き起こすなど、安定的な輸送に大きな支障となっております。

また、能越自動車道においては、高規格幹線道路として位置づけられておりますが、管理者が複数で一部の区間が有料となっております。能登・富山県西部の物流の効率化や地域の活性化はもとより、災害時には、避難、復旧・復興支援道路としても大きな役割を担うことから、一体的な管理のものと機動的な運用が必要となってきております。

つきましては、高規格道路の機能向上として、次の事項について格段のご配慮を賜りますよう強く要望いたします。

- 1 東海北陸自動車道の全線4車線化
- 2 能越自動車道の国による一元管理